

コミュニティ・スクール推進フォーラムにおける実践発表資料

学 校 名	小平市立小平第六小学校
所 在 地	東京都小平市小川東町3-1-2
電話番号	042-341-0356

1 実践発表のテーマ

「コミュニティが育てる、子どもの夢が広がる学校」

保護者や地域住民の意向を適切に反映させ、子どもの夢が広がる学校づくりを進める研究

－ 学校運営協議会の組織や役割、責任等システムの在り方等についての研究 －

小平市では、「地域で育てよう すこやかな子ども」を基本に据え、多くの保護者や地域の方が学校支援ボランティアとして教育活動にかかわり、また地域で子どもを見守る活動をしている。平成17年度は、その延べ人数が、4万4千名を超えた。こうした地域連携を基盤とした小平市としてのコミュニティ・スクールの在り方を実践研究し、推進の方向性を検討している。

2 実践の推進体制

(1) 小平市コミュニティ・スクール推進委員会

平成17年度、市教育委員会が小平市コミュニティ・スクール推進委員会設置要綱及び運営要領を制定し、10月に第1回目のコミュニティ・スクール推進委員会を開催した。以後、今までに、学校運営協議会の組織やその役割、責任等のシステムを検討を進め、小平六小において学校運営協議会を試行し、その検証を行っている。

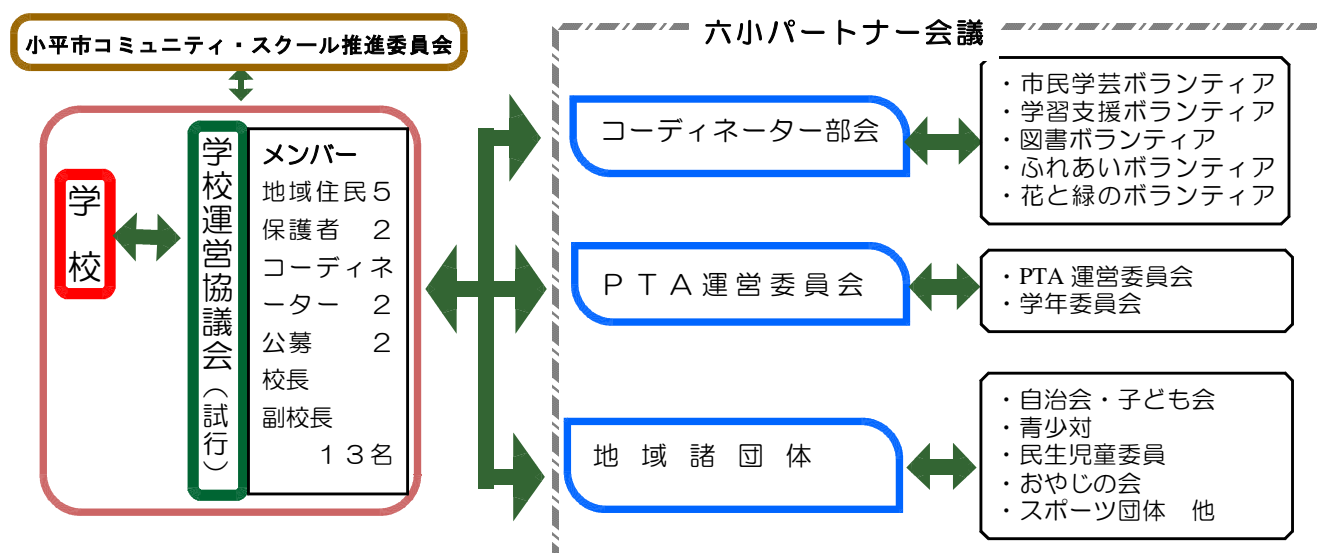
組織のメンバーは、地域住民2名、保護者2名、学校支援ボランティアコーディネーター、校長、副校長、コミュニティ・スクール担当教諭、主幹2名、指導課長、生涯学習推進課長の12名である。

(2) 小平第六小学校学校運営協議会（試行）

平成18年度より、小平第六小学校学校運営協議会の試行を始めた。保護者・地域住民へのアンケート実施の結果、六小コミュニティ・スクールは子どもの「心育ち」を基盤にし、「誰もが豊かに生きることのできる地域社会」の実現に向けて、具体的な取組を計画的に進めることを確認した。

この具体的な取組を推進していくための組織作りは、既存のボランティア組織やPTA活動の組織を中心に置いた。小平市には学校支援ボランティアとそのコーディネーターという学校と連携した組織力があり、今まで蓄えられてきた地域や保護者の教育力が十分に発揮できる素地がある。

メンバー構成は、地域住民5名、保護者2名、学校支援ボランティアコーディネーター2名、公募委員2名、校長、副校長の13名である。事務局として主幹・教諭が参加している。



3 成果と課題

(1) 小平六小コミュニティ・スクール像

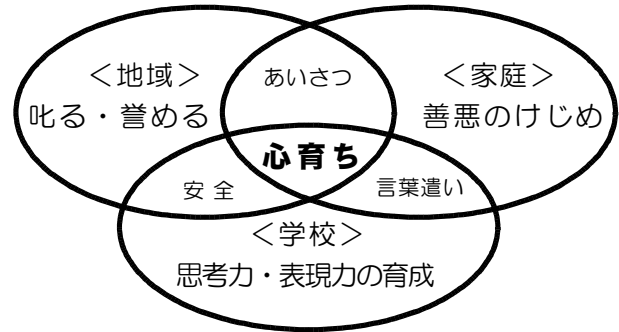
より多くの地域の声を反映させたコミュニティ・スクールにするために、平成18年度1学期に、保護者及び学区内の各自治会を通してアンケート調査を実施した。アンケートでは、学校としての方向性を示した上で、家庭・学校・地域の役割を明確にしていこうと考えた。アンケートの回収率は、保護者70%、地域住民35%、全体で40%を超え、六小教育活動へ関心が高いと感じた。

アンケートの結果から、家庭・学校・地域が求める子ども像として浮き彫りにされたのは、ルールやマナーを守る社会性のある子、相手を思いやる子などであった。健全な子どもの育成には、「心育ち」が基盤であることが改めて確認されたといつてよい。具体的には、家庭では善悪のけじめを、地域では、よいことは誉め、悪いことは叱ることを、そして、学校ではその基となる思考力・表現力をつけることであり、この三者が果たす役割を明確にするとともに、共通理解を深めてきた。

アンケート結果の「心育ち」を基盤として、現在六小が行っている教育活動を見直すと、価値ある実践が見えてきた。①地域参画型による豊かな授業の創造 ②学校支援ボランティアの充実③豊かな親子関係を育む家庭教育支援事業 ④豊かな人間関係を育むコミュニケーション能力の育成などである。これらの具体的な実践の充実を図り、小平六小の目指すコミュニティ・スクール像を考えた。

それは、家庭・学校・地域が豊かに生きることを目指して融合した姿である。家庭においては、豊かな親子関係、学校においては、豊かな学力、豊かな心の育成、地域においては、豊かなコミュニティを育むまちを目指し、それらが融合したときに、「誰もが豊かに生きることのできる地域社会」が実現できると考える。そうした社会の実現こそがコミュニティ・スクールの目指す像であるととらえている。

＜アンケート分析から＞



(2) 地域参画型による豊かな授業の創造

＜地域参画型授業＞

小平六小では、総合的な学習の時間をはじめ、多くの学習指導に学校支援ボランティアが参画している。中でも地域との連携があってこそ実現できる地域参画型授業が特色である。今までも、例えば、子どもたちに本物を見せたいという地域の願いが、学校支援ボランティアとコーディネーターとの連携による地域参画型授業により「六小美術館」や「小平の昔の婚礼再現」などとして実現できた。

＜本年度の実践例＞

1学期に行った音楽の授業では、プロのヴァイオリニストやオペラ歌手を招いたコミュニティコンサートを実現した。本物の音に触れる経験をし、感性を磨き、言葉で表現するコミュニケーションの力をつける授業になった。保護者の本物を聞かせたいという願いが、教員とコーディネーター部会や学年PTA委員との連携により、授業として実現することができた。

また、現在は、学校運営協議会（試行）の助言を受けて、「小川駅西口再開発計画」という地域素材を6年社会科の授業で教材化を進めている。子どもたちが地域の社会事象に興味・関心を持ち、自分の考えで提言できる市民性を育てたいと考えてい



＜小平の昔の婚礼の再現＞



＜担任と関係者との打ち合わせ会＞

る。コーディネーター部会との連携により、市議会議員・再開発計画担当部署の人などとの連絡調整が進み、これまでにないダイナミックな社会科の取組ができるのではないかと期待が膨らんでいる。子どもたちに地域社会の一員としての自覚を持たせたいという願いは教諭も地域の人々も同じである。地域参画型の授業では、共通の土台で考えるとところに力が生まれてくる。これからの展開を楽しみにしているところである。

＜校内研究との連携＞

この地域参画型授業では本年度の小平六小の研究テーマである「コミュニケーション能力の育成」を生かして進めている。コミュニケーション能力を育てるためには、自分の考えを自分の言葉で言う経験、より多くの人とかかわる経験が必要であり、地域参画型授業はそのよい機会であるにとらえている。こうした観点からも前述の6年社会科「小川駅西口再開発計画」の授業が生まれている。

今後も、地域参画型授業について、学校運営協議会（試行）で検討し、組織的に、継続的に、意義ある地域参画型授業を行っていくための方策を検討していく。

また地域参画型授業を通して、授業と連携した事業を企画・立案し、保護者・地域にも働きかけていくことで、子どもたちの心育で地域全体で取り組むことができ、効果をあげるのではないかと考えている。

（3）家庭教育支援事業の実践

小平六小では以前から生活習慣形成において家庭への啓発が求められていた。そこで、家庭教育支援のためのブックレット「心を育て、心をつなぐ」を作成した。内容は、親子のきずなを深める4つの手だて、家庭における学びの習慣化の手だてなど、家庭力の向上をねらいとした。このブックレットの企画・制作にPTA・コーディネーター部会が参画し、地域ぐるみで家庭教育を支援する姿勢で進めた。

また、子どもたちが家庭で長期間を過ごす夏休み期間を大事な機会にとらえ、「いきいきわくわく夏休み」ブックレットを作成。その企画・制作段階にコーディネーターが加わり、学校のみからの発信ではない、保護者・地域の声を生かしたブックレットとなった。

また、「プレ1年生」は、来年度の1年生の全家庭を対象にコーディネーター部会の企画・運営による家庭教育支援事業として実践した。来年度入学する子どもたちの体験入学や保護者向けにコントなども交えた子育て講座を開き、効果的に家庭教育への啓発を図ることができた。今後もこのような事業を実践していく。

（4）学校評価

小平六小ではこれまでも、家庭・地域・教員の3者による評価を年度末に行い、新年度の計画に生かしてきた。今年度より学校運営協議会（試行）がその評価項目を見直し、修正を加えるなど学校との連携を図りながら、外部評価を実施する。また評価結果を学校運営協議会（試行）として検討し、学校へ意見として提出するようまとめる。学校ではその評価を受けて新年度計画を策定するようにした。

4 今後の取組

（1）小平第六小学校は、平成19年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、実践を進める予定である。今後、小平市では、市内にコミュニティ・スクールの指定を増やしていきたいと考えている。そのためにコミュニティ・スクール推進委員会では、小平市の特徴を生かした学校運営協議会の制度づくりの研究をさらに推進していく。

（2）豊かな授業の構築に向けて、地域参画型授業を生かした実践が効果的に行われる組織づくり、方策を検討していく。

（3）地域ぐるみで家庭教育支援を進める方策についても、学校運営協議会で検討していきたいと考える。